

日常生活ならびにセルフコントロールと  
非行との関連

国際自己申告非行調査（ISRＤ）  
ワーキングペーパーシリーズ 1

2021年5月  
ISRＤ-JAPAN 実行委員会



## はじめに

このワーキングペーパーは、近畿地方の Z 市内の中学校に通学する生徒を対象に 2019 年 12 月から 2020 年 2 月にかけて実施した国際自己申告非行調査 (ISRD: International Self-Report Delinquency Study) の結果のうち、特に「中学生の日常生活に関する事項」、ならびに「中学生のセルフコントロール\*の程度」と非行との関連について、詳しく分析・検討した結果をまとめたものである。なお、調査全体に関する報告書は「龍谷大学犯罪学研究センター」の Web サイト上で公開されているので、そちらも参照していただければ幸いである。

『国際自己申告非行調査 (ISRD) 研究報告書

——2019 年度実施調査の概要と基礎的分析——』

(URL) [https://crimrc.ryukoku.ac.jp/isrd-japan/data/isrd3\\_report\\_z.pdf](https://crimrc.ryukoku.ac.jp/isrd-japan/data/isrd3_report_z.pdf)



### \*セルフコントロールについて

セルフコントロール (self-control、以下 SC) は一般的に「自制」などとも訳されるが、犯罪学においては特に、SC の低さが「犯罪・非行を含むさまざまな逸脱行為と結びつく」ものとして理解されている。「セルフコントロール理論」を提唱した T.ハーシ (Hirschi, T.) と M.ゴットフレッドソン (Gottfredson, M.R.) によると、「SC と犯罪・非行をはじめとする逸脱行為との関係性は人種・性別・文化を超えて適用される」・「SC の程度は家庭や学校などのしつけによって幼少期に決定され、その程度は一生にわたって不変である」とされている。

(参考) 上田光明「犯罪・非行をしないのはなぜか? コントロール理論」岡邊健編『犯罪・非行の社会学 常識をとらえなおす視座 [補訂版]』有斐閣、2020

# 1. 「中学生の日常生活に関する事項」について

本節でははじめに、「日常生活」に関する質問の回答結果について、公立中学と私立中学における回答結果を比較する。この比較作業は、学年（1年生・2年生・3年生）と性別（男女）の6属性ごとに行う。「日常生活」に関する事項は、「親と夕食をとる頻度」・「週末の夜の帰宅時間」・「授業時間以外での文化的活動の程度」・「授業時間以外でのスポーツ活動の程度」・「授業時間以外での学習等の活動の程度」の5項目である。結果はクロス集計表にまとめて、カイ2乗検定・残差分析と呼ばれる手法により、公立中学と私立中学で統計的に意味のある違いがあるかの検討を行う（以下、統計的に意味のある違いがみられた場合に限り、本文で言及することにする）。

まず、「親と夕食をとる頻度」（図 1-1-1～図 1-1-7）に関しては、全体では統計的に意味のある違いがみられ、私立中学で「週に5～6回」が公立中学より多く選択される傾向にあった（図 1-1-1）。学年・性別を区別した上でクロス集計した結果、「1年生・女子」で統計的に意味のある違いがみられ、私立中学で「週に5～6回」が公立中学より多く選択され、公立中学で「毎日」が私立中学より多く選択される傾向にあった（図 1-1-3）。

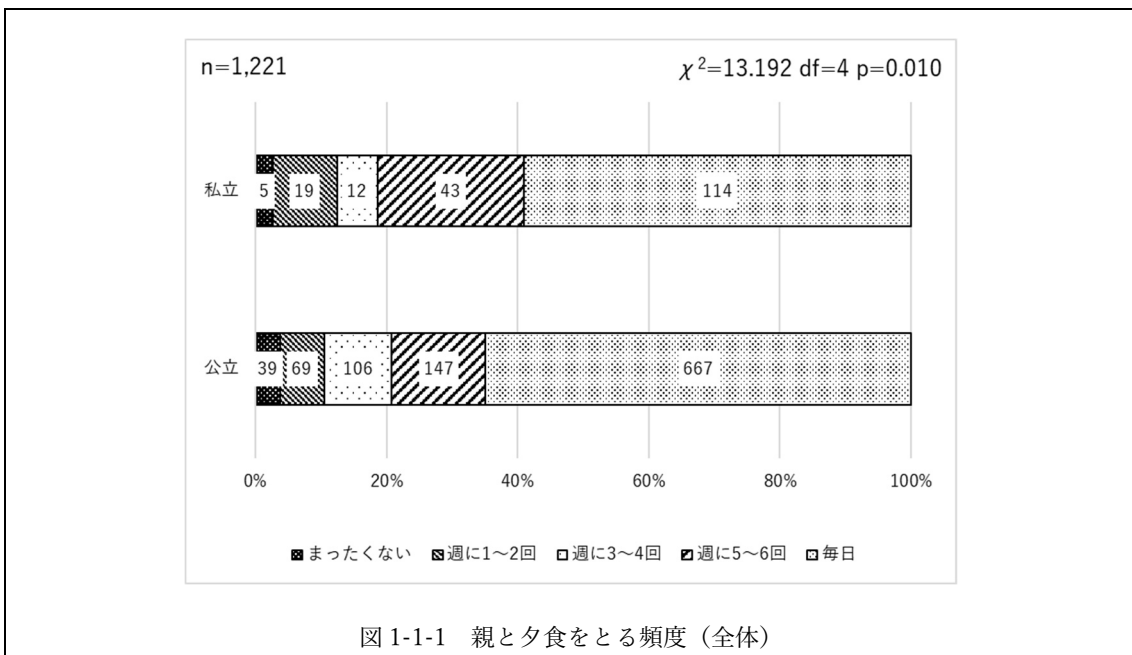


図 1-1-1 親と夕食をとる頻度（全体）

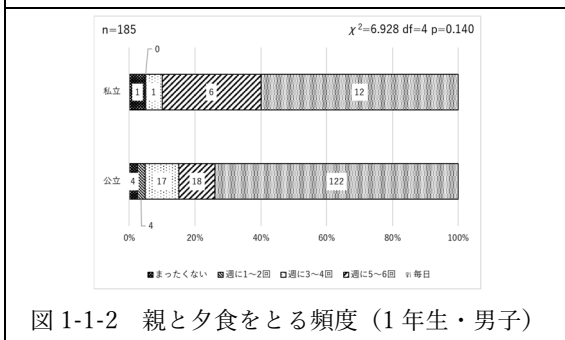


図 1-1-2 親と夕食をとる頻度（1年生・男子）

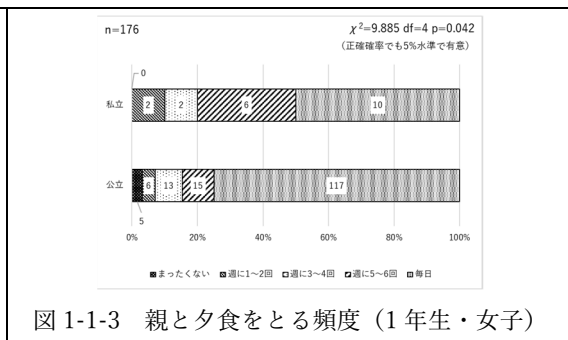
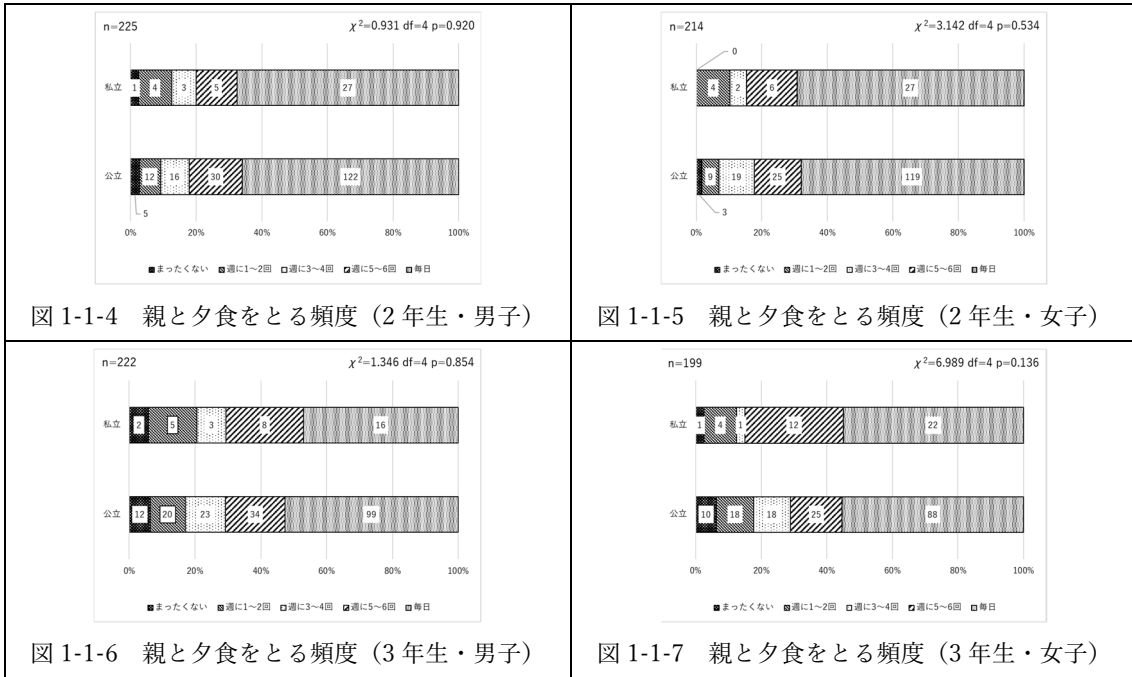
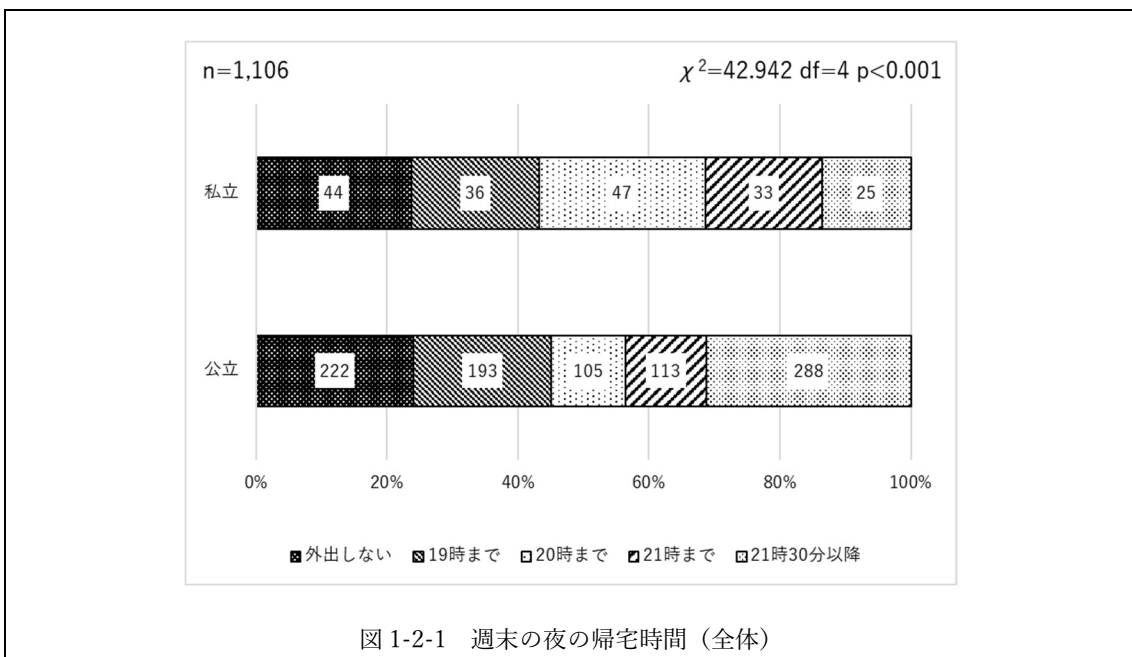
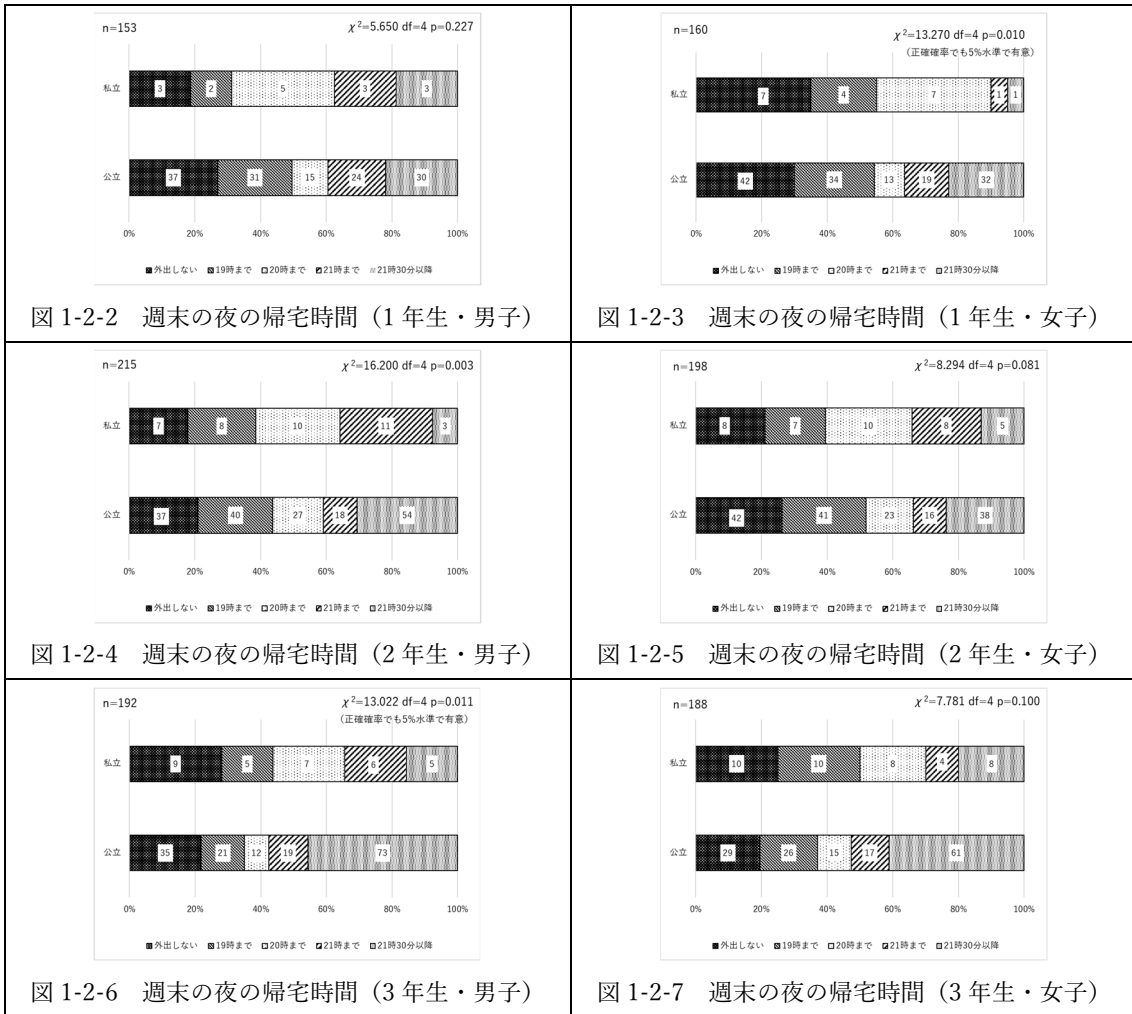


図 1-1-3 親と夕食をとる頻度（1年生・女子）



「週末の夜の帰宅時間」(図 1-2-1~図 1-2-7) に関しては、全体では統計的に意味のある違いがみられ、私立中学で「20時まで」、「21時まで」が公立中学より多く選択され、公立中学で「21時30分以降」が私立中学より多く選択される傾向にあった(図 1-2-1)。学年・性別を区別した上でクロス集計を行った結果、「1年生・女子」、「2年生・男子」、「3年生・男子」で統計的に意味のある違いがみられた。「1年生・女子」では、私立中学で「20時まで」が公立中学より多く選択される傾向にあった(図 1-2-3)。「2年生・男子」では、私立中学で「21時まで」が公立中学より多く選択され、公立中学で「21時30分以





降」が私立中学より多く選択される傾向にあった (図 1-2-4)。「3年生・男子」では、私立中学で「20時まで」が公立中学より多く選択され、公立中学で「21時30分以降」が私立中学より多く選択される傾向にあった (図 1-2-6)。

「授業時間以外での文化的活動の程度」(図 1-3-1～図 1-3-7) に関しては、全体では統計的に意味のある違いがみられなかった。学年・性別を区別した上でクロス集計を行った結果、「3年生・女子」で統計的に意味のある違いがみられ、私立中学で「よくある」が公立中学より多く選択される傾向にあった (図 1-3-7)。

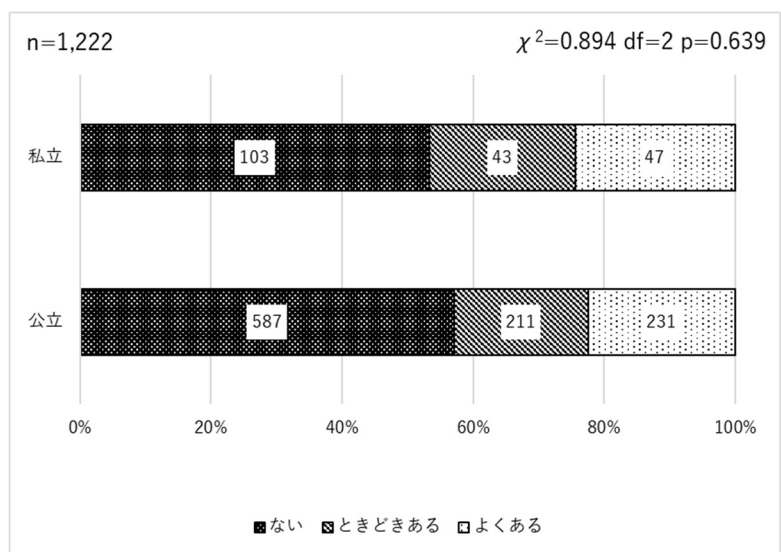


図 1-3-1 授業時間以外での文化的活動の程度 (全体)

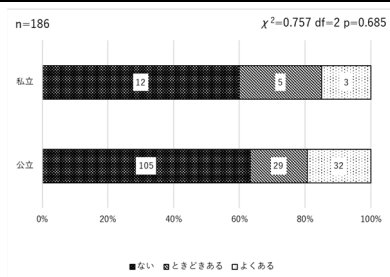


図 1-3-2 授業時間以外での文化的活動の程度 (1年生・男子)

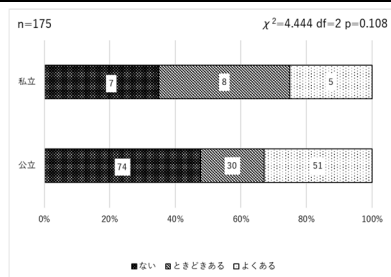


図 1-3-3 授業時間以外での文化的活動の程度 (1年生・女子)

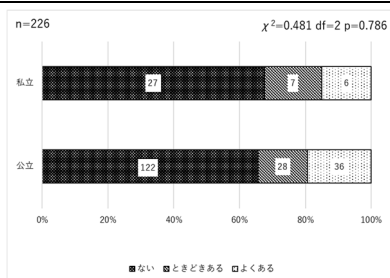


図 1-3-4 授業時間以外での文化的活動の程度 (2年生・男子)

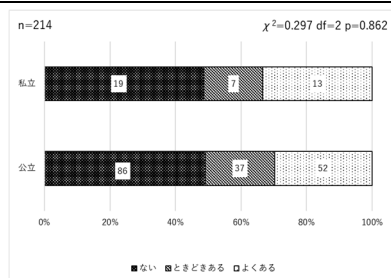


図 1-3-5 授業時間以外での文化的活動の程度 (2年生・女子)

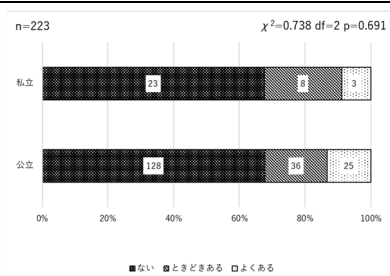


図 1-3-6 授業時間以外での文化的活動の程度 (3年生・男子)

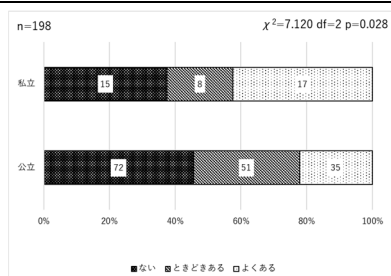


図 1-3-7 授業時間以外での文化的活動の程度 (3年生・女子)

「授業時間以外でのスポーツ活動の程度」(図 1-4-1～図 1-4-7) に関しては、全体では統計的に意味のある違いがみられ、私立中学で「ない」が公立中学より多く選択され、公立中学で「ときどきある」が私立中学より多く選択される傾向にあった(図 1-4-1)。学年・性別を区別した上でクロス集計を行った結果、「3 年生・女子」で統計的に意味のある違いがみられ、私立中学で「よくある」が公立中学より多く選択され、公立中学で「ときどきある」が私立中学より多く選択される傾向にあった(図 1-4-7)。

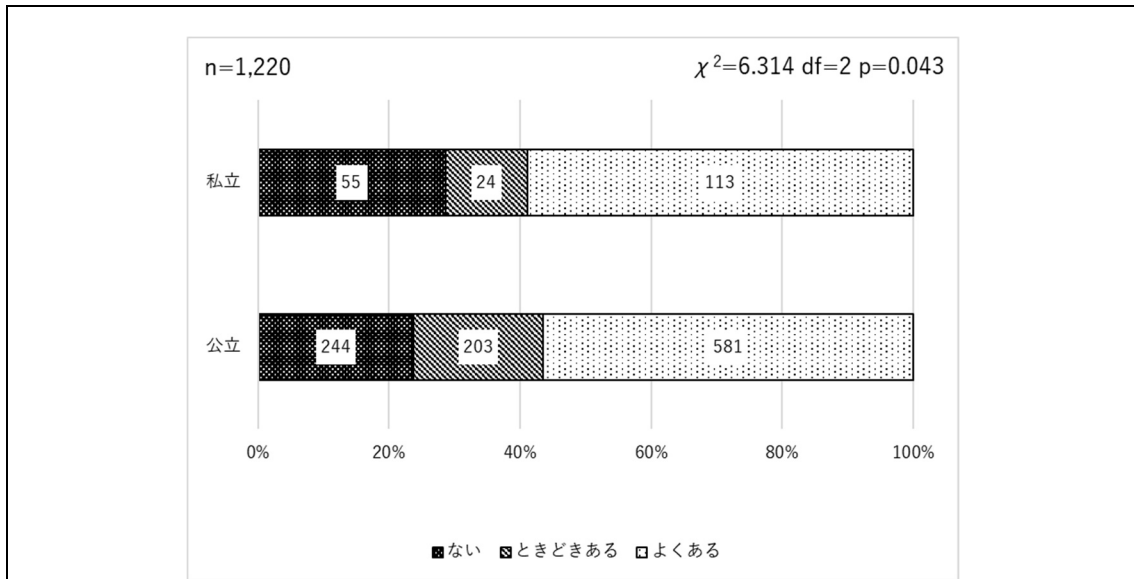


図 1-4-1 授業時間以外でのスポーツ活動の程度 (全体)

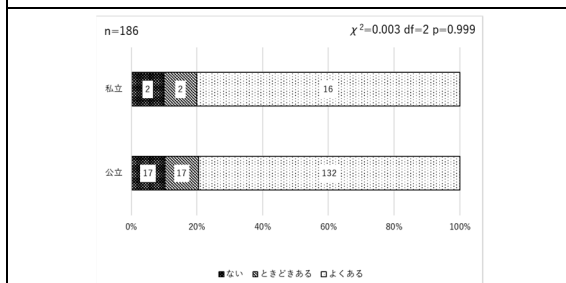


図 1-4-2 授業時間以外でのスポーツ活動の程度 (1 年生・男子)

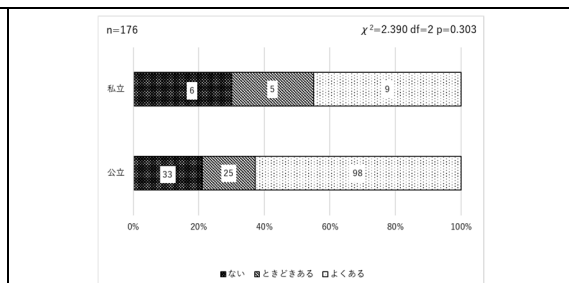


図 1-4-3 授業時間以外でのスポーツ活動の程度 (1 年生・女子)

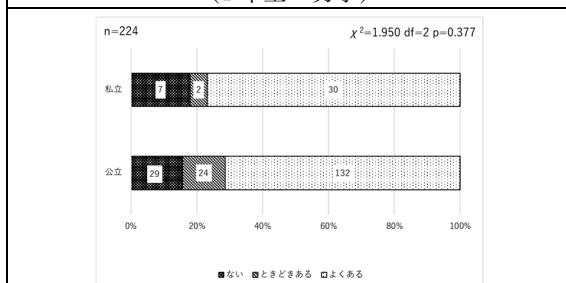


図 1-4-4 授業時間以外でのスポーツ活動の程度 (2 年生・男子)

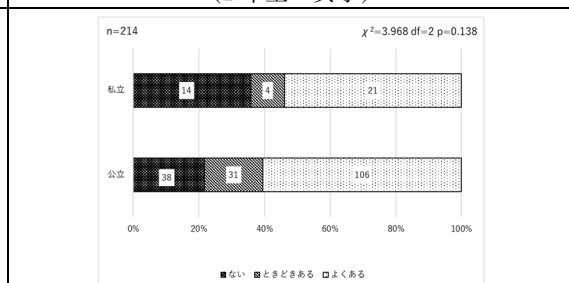


図 1-4-5 授業時間以外でのスポーツ活動の程度 (2 年生・女子)



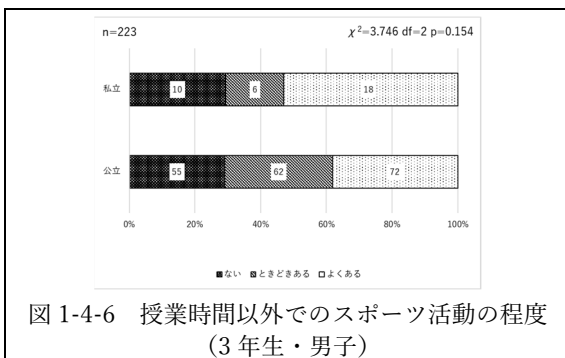


図 1-4-6 授業時間以外でのスポーツ活動の程度 (3年生・男子)

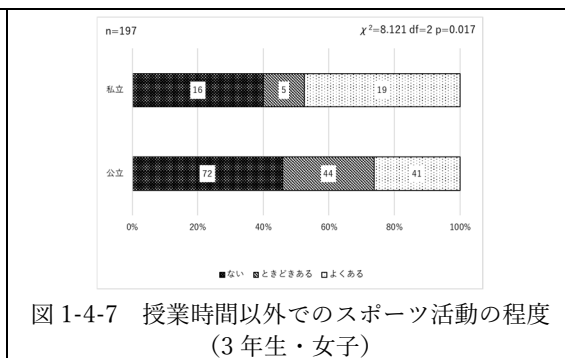


図 1-4-7 授業時間以外でのスポーツ活動の程度 (3年生・女子)

「授業時間以外での学習等の活動の程度」(図 1-5-1～図 1-5-7) に関しては、全体では統計的に意味のある違いがみられ、私立中学で「ときどきある」が公立中学より多く選択され、公立中学で「よくある」が私立中学より多く選択される傾向にあった(図 1-5-1)。学年・性別を区別した上でクロス集計を行った結果、「3年生・女子」で統計的に意味のある違いがみられ、私立中学で「ない」が公立中学より多く選択され、公立中学で「よくある」が私立中学より多く選択される傾向にあった(図 1-5-7)。

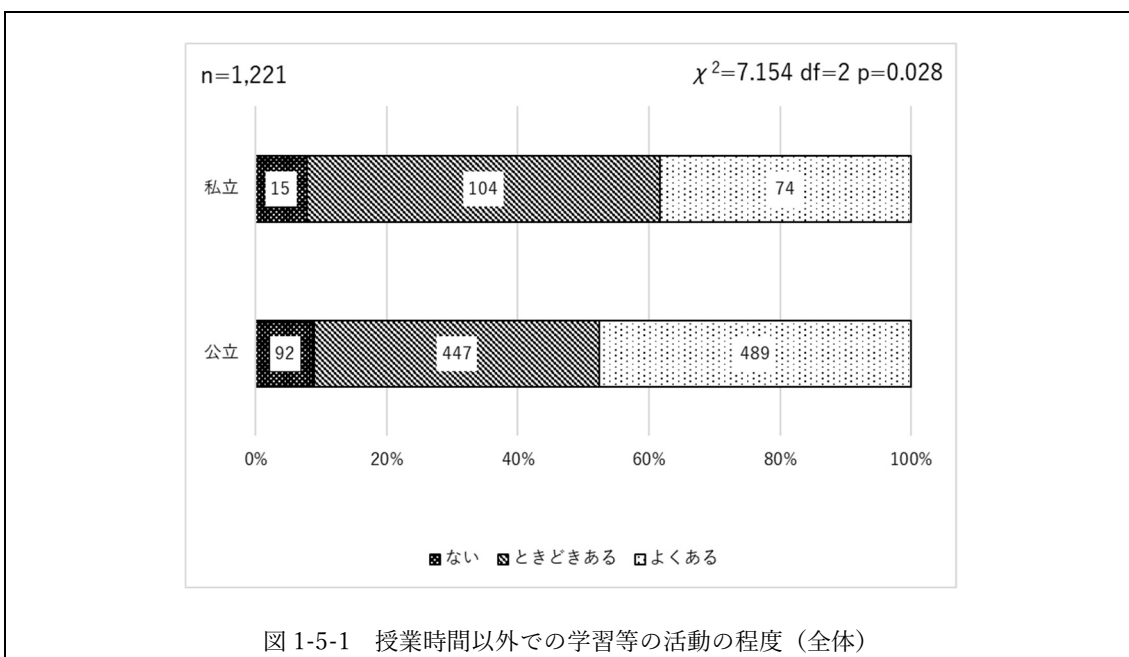


図 1-5-1 授業時間以外での学習等の活動の程度 (全体)

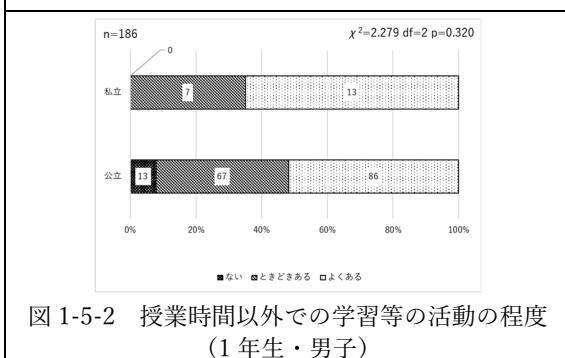


図 1-5-2 授業時間以外での学習等の活動の程度 (1年生・男子)

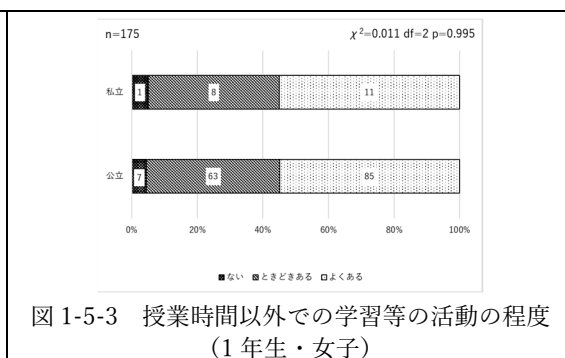


図 1-5-3 授業時間以外での学習等の活動の程度 (1年生・女子)

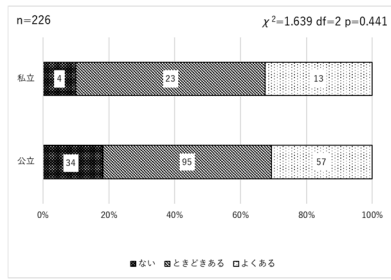


図 1-5-4 授業時間以外での学習等の活動の程度 (2年生・男子)

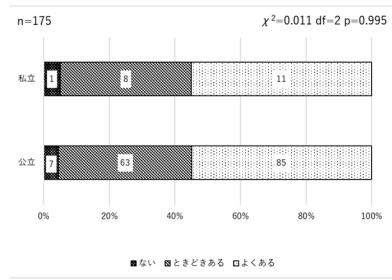


図 1-5-5 授業時間以外での学習等の活動の程度 (2年生・女子)

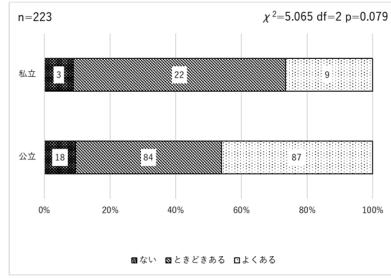


図 1-5-6 授業時間以外での学習等の活動の程度 (3年生・男子)

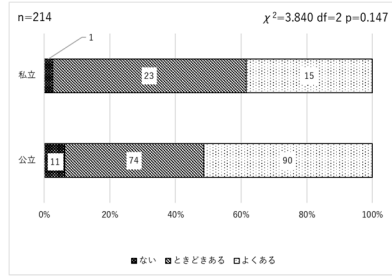


図 1-5-7 授業時間以外での学習等の活動の程度 (3年生・女子)

続いて、これら日常生活に関する事項と非行との間にどういった関連があるのか、分析を行う（図 1-6-1～図 1-6-6）。「非行」に関する質問項目は、自転車盗、自動車盗、その他窃盗、凶器の持ち歩き、集団でのけんか、違法ダウンロード、薬物売買等の 14 項目（16 頁参照）について、これまでに 1 度でも経験があるか否かを尋ね、「ある」と回答した者については最近 12 ヶ月間での回数を自由記述で尋ねている。ここでは、「14 種類の内、いずれか 1 つでもこれまでに経験があるかどうか」を分析に用いる（14 項目の回答の一部に無回答が含まれていた 45 名については、無回答の項目は「経験なし」とみなして集計する。この 45 名のうち 32 名は「一度も非行の経験がない」に分類されている）。

統計的に意味のある関連があるかを検討するため、カイ 2 乗検定を行った。まず、公立中学についてみたところ（図 1-6-1～図 1-6-5）、「週末の夜の帰宅時間」（図 1-6-2）および「授業時間以外での学習等の活動の程度」（図 1-6-5）と「非行経験の有無」の関係については、統計的に意味のある関連が確認された。それ以外の 3 つについては、統計的に意味のある関連は見られなかった。

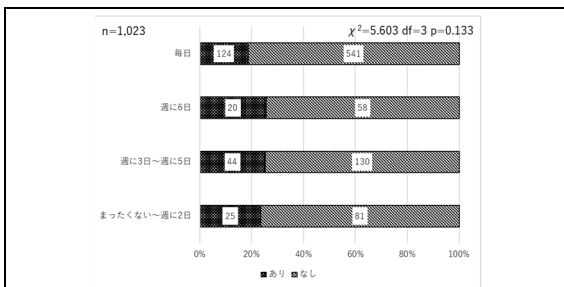


図 1-6-1 親と夕食をとる頻度と非行経験の有無との関連（公立）

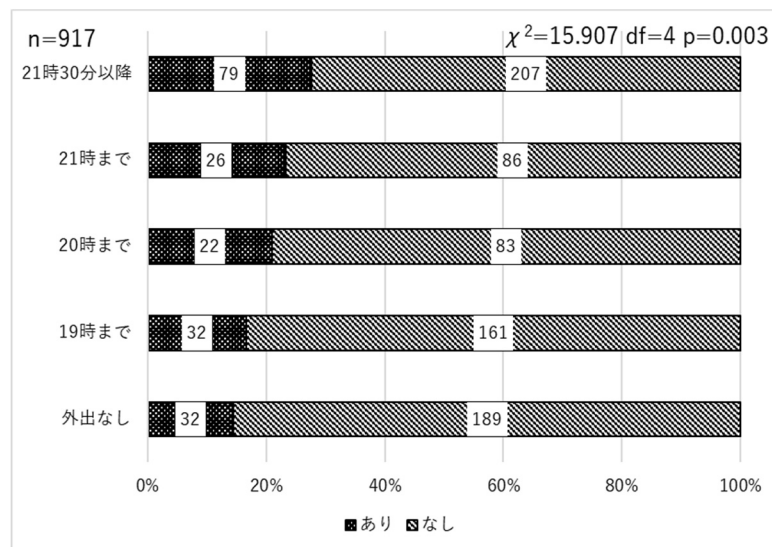
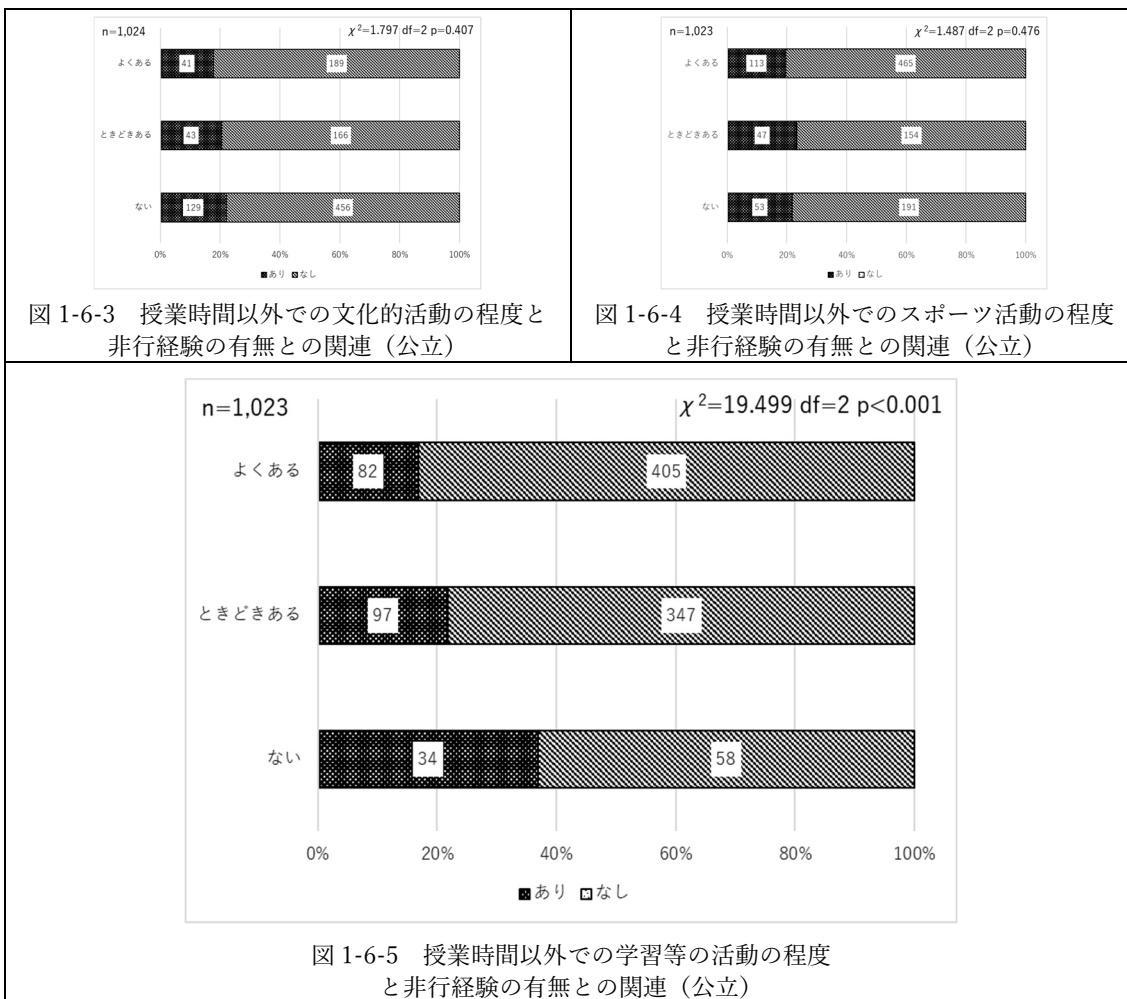


図 1-6-2 週末の夜の帰宅時間と非行経験の有無との関連（公立）



「週末の夜の帰宅時間」と「授業時間以外での学習等の活動の程度」と「非行」との関連については、残差分析と呼ばれる手法でさらに検討を行った。その結果、「週末の夜の帰宅時間」について、「外出しない」と答えた者の中では「一度も非行の経験がない」割合の方が有意に大きく、「21時30分以降に帰宅する」と答えた者の中では「非行の経験がある」割合の方が有意に大きいということが明らかになった。また、「授業時間以外での学習等の活動の程度」について、「よくある」と答えた者の中では「一度も非行の経験がない」割合の方が有意に大きく、「ない」と答えた者の中では「非行の経験がある」割合の方が有意に大きいということが明らかになった。

続いて私立中学についてみたところ(図1-6-6～図1-6-10)、「親と夕食をとる頻度」と「非行経験の有無」の関係については、統計的に意味のある関連が確認された(図1-6-6)。それ以外の4つについては、統計的に意味のある関連は見られなかった。「親と夕食をとる頻度」と「非行」との関連については、残差分析と呼ばれる手法でさらに検討を行った。その結果、「夕食を毎日親ととる」と答えた者の中では、「一度も非行の経験がない」割合の方が有意に大きいということが明らかになった。さらに、「夕食を週に3日～週に5日親ととる」と

答えた者の中で、「一度も非行の経験がない」割合の方が有意に小さくなる傾向を確認することができた。

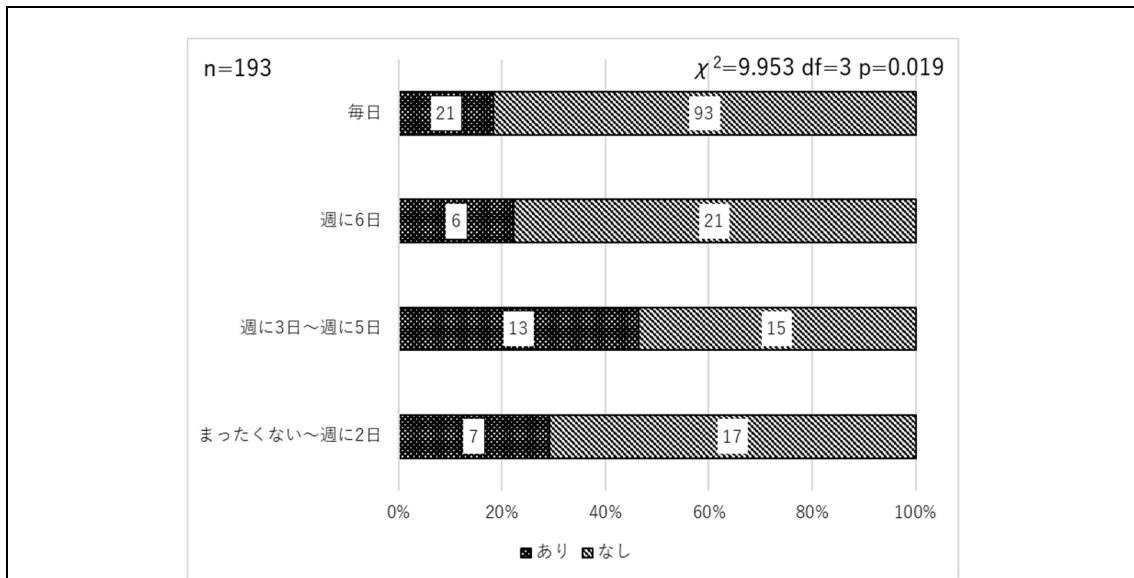


図 1-6-6 親と夕食をとる頻度と非行経験の有無との関連 (私立)

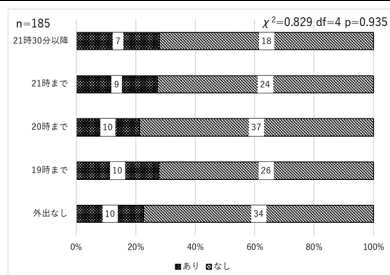


図 1-6-7 週末の夜の帰宅時間と非行経験の有無との関連 (私立)

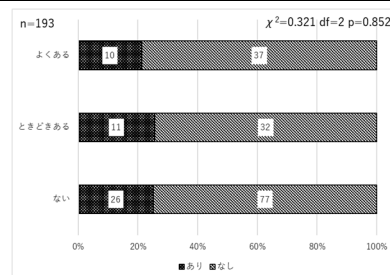


図 1-6-8 授業時間以外での文化的活動の程度と非行経験の有無との関連 (私立)

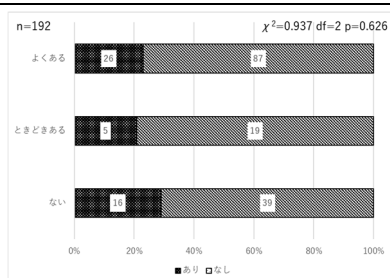


図 1-6-9 授業時間以外でのスポーツ活動の程度と非行経験の有無との関連 (私立)

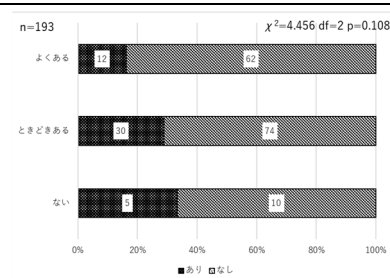
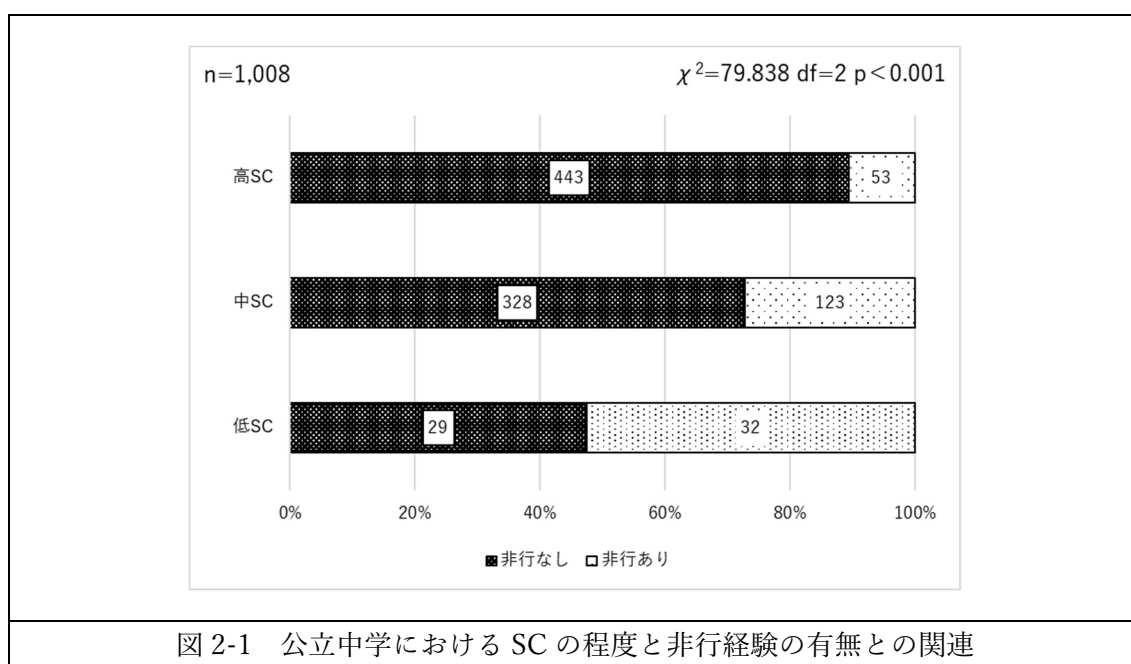


図 1-6-10 授業時間以外での学習等の活動の程度と非行経験の有無との関連 (私立)

## 2. 「中学生のセルフコントロールの程度」について

本節では、中学生のセルフコントロール（以下「SC」と略記する場合がある）の程度と非行との関連について検討する。SCの程度は、15頁に示された9項目の質問に対する回答から算出する。各項目への回答をもとに「とてもそう思う」に1点、「ややそう思う」に2点、「あまりそう思わない」に3点、「まったくそう思わない」に4点を与えて、9項目の点数を合算（最小値：9、最大値：36）した上で、ここでは「低SC（9～18点）」・「中SC（19～27点）」・「高SC（28～36点）」の3群に分割して検討を加える。非行については前節と同様に、「14種類の内、いずれか1つでもこれまでに経験があるかどうか」を用いる。

SCの程度が非行経験と関連を有しているかについて、カイ二乗検定と呼ばれる手法を用いて確認した。その結果、公立中学については、統計的に意味のある関連が確認された（図2-1）。すなわち、SCの程度が高い生徒においては、非行経験がある割合が最も少なく、SCの程度が低くなるにつれて、非行経験がある生徒の割合が多くなることが明らかとなった。



続いて、私立中学についてみたところ、同様に、統計的に意味のある関連が確認された（図2-2）。すなわち、SCの程度が高い生徒においては、非行経験がある割合が最も少なく、SCの程度が低くなるにつれて、非行経験がある生徒の割合が多くなることが明らかとなった。このことから、これらの結果は、セルフコントロール理論を支持するものであるといえる。

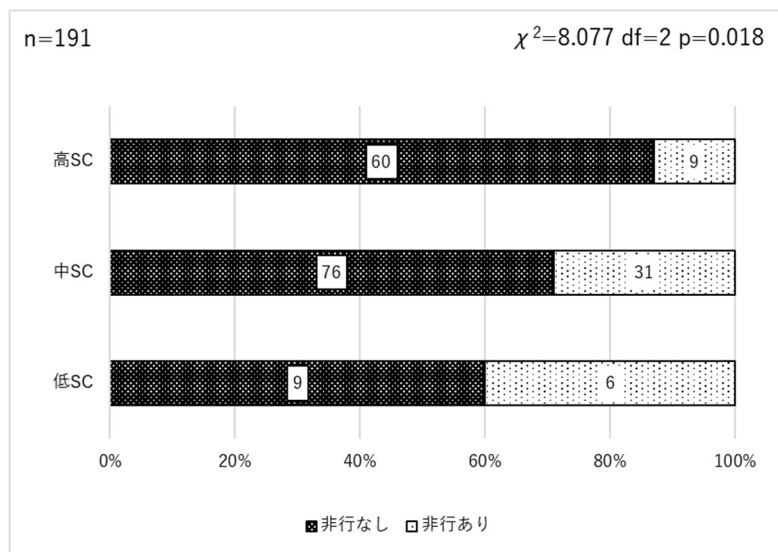


図 2-2 私立中学における SC の程度と非行経験の有無との関連

## (参考資料) 分析に用いた設問

※①～③は、実際に使用した調査項目全体の中から、該当箇所のみを紹介している。

※調査票全体については、1 ページで紹介した報告書に掲載している。

### ①中学生の日常生活に関する事項

2.2) あなたは、ふだん、一週間のうち何日くらい親と一緒に夕食を取りますか？

- まったくない      週に1日      週に2日       Q12  
週に3日      週に4日      週に5日  
週に6日      毎日

5.2) あなたは、週末の夜に外出するときには、いつも何時くらいに家に帰りますか？

- わたしは、週末の夜に外出することはない  
たいてい、\_\_\_時くらいに帰る (時刻を記入)

- Q18
- 1 わたしは、週末の夜に外出することはない  
 2 たいてい、午後7時くらいに帰る  
 3 たいてい、午後7時30分くらいに帰る  
 . . . . .  
 25 たいてい、午前6時30分くらいに帰る  
 26 たいてい、午前7時くらいに帰る

Q21S1～Q21S9

5.6) 学校の授業時間以外で、ふだんどのようなことをしていますか？

	ない	ときどき ある	よくある
コンビニやファミレス、ゲームセンターでたむろする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
部活動などで文化的なことをする (演劇、音楽、絵画、文章を書く、読書など)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
だれかとけんかをする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
部活動などでスポーツをしたり、身体を動かしたりする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
学校の勉強または宿題をする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ショッピングセンターや街、公園、地元でぶらぶら遊ぶ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
違法なことをして楽しむ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
お酒を飲む、または薬物を使う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
だれかを怖がらせたり、嫌がらせをしたりして楽しむ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>



②セルフコントロールの程度

6.5) 以下の文章について、あなたは、どのくらいそう思いますか？

Q34S1～Q34S9	とても そう思う	やや そう思う	あまり そう思わ ない	まったく そう思わ ない
わたしは、思いつきで行動することが多い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
わたしは、今やって楽しいことなら、 あとで損になるようなことでもやる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
わたしは、時間をかけて何かを得るよりも、 短期間で何かを得ることに興味がある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
わたしはときどき、ちょっと危険なことをして 自分を試したくなる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
わたしはときどき、おもしろ半分で 危険なことをする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
安全であることよりも、ハラハラしたり ドキドキしたりすることの方が大事である	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
わたしは、だれかに迷惑をかけることになっても、 自分のことを第一に考える	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
わたしがしたこと、だれかを怒らせたとしても、 自分には関係ない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
わたしは、だれかを困らせるとわかっていても、 自分の思い通りにしようとする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

### ③非行経験

7.1) 若い人は、だれかの持ちものを壊したり、盗んだりするなど、してはいけないことをすることがあります。また、わざとだれかをたたいたり、傷つけたりする人もいます（単なる遊びで格闘技のまねをするような状況のことではありません）。あなたはどうか？  
あなたは、これまでに以下のことをしたことがありますか？ もしそうであれば、最近 12 ヶ月間で、何回くらいしましたか？

あなたの答えは、家族にも、先生にも、警察にも、他のだれにも決して知られることはありません。あなたの秘密は確実に守られます。

「ない」または「ある」を選び、「ある」の場合には、最近 12 ヶ月間の回数を記入してください。

あなたは、生まれてから今までの間、かべ、電車、地下鉄やバスに落書きしたことがありますか？

ない

ある→最近 12 ヶ月間では、何回ありましたか？ \_\_\_\_ 回（なければ「0」と記入）

…あなたは、生まれてから今までの間、バス停、建物の窓、自動車、バスや電車の座席などをわざと傷つけたことがありますか？

…あなたは、生まれてから今までの間、店やデパートからものを盗んだことがありますか？

…あなたは、生まれてから今までの間、ものを盗むために、建物に侵入したことがありますか？

…あなたは、生まれてから今までの間、自転車を盗んだことがありますか？

…あなたは、生まれてから今までの間、バイクまたは自動車を盗んだことがありますか？

…あなたは、生まれてから今までの間、自動車の部品や自動車の中のを盗んだことがありますか？

…あなたは、生まれてから今までの間、だれかからお金やものをとるために、凶器や暴力を用いたり、暴力を用いるとおどしたりしたことがありますか？

…あなたは、生まれてから今までの間、暴力やおどしを使わずに、だれかからものを盗んだことがありますか？

…あなたは、生まれてから今までの間、棒、ナイフ、チェーンや銃といった凶器を持ち歩いたことがありますか？

…あなたは、生まれてから今までの間、路上や公園、他の公的な場所で、集団でのけんかに参加したことがありますか？

…あなたは、生まれてから今までの間、相手にけがをさせるほど、棒やナイフを使ってひどく痛めつけたり、傷つけたりしたことがありますか？

…あなたは、生まれてから今までの間、インターネットから音楽や映画を違法にダウンロードしたことがありますか？

…あなたは、生まれてから今までの間、薬物を売ったり、売る人に協力をしたりしたことがありますか？



## ISRD-JAPAN 運営委員会 (※は委員長)

※津島 昌弘 (龍谷大学・教授)	津富 宏 (静岡県立大学・教授)
石塚 伸一 (龍谷大学・教授、弁護士)	朴 元奎 (北九州市立大学・名誉教授)
上田 光明 (同志社大学・准教授)	浜井 浩一 (龍谷大学・教授)
岡邊 健 (京都大学・准教授)	福島 至 (龍谷大学・研究フェロー、 弁護士)
久保田真功 (関西学院大学・教授)	松原 英世 (愛媛大学・教授)
作田誠一郎 (佛教大学・教授)	森久 智江 (立命館大学・教授)

## ISRD-JAPAN 実行委員会 ([ ]内は本ワーキングペーパー担当箇所)

岡邊 健 (京都大学・准教授)	[全体監修]
我藤 諭 (龍谷大学・嘱託研究員)	[2~8 頁]
齋藤 堯仁 (京都大学・大学院生)	[12~13 頁]
竹中 祐二 (北陸学院大学・准教授)	[1 頁・9~11 頁・14~16 頁・全体編集]

相澤 育郎 (立正大学・助教)  
上田 光明 (同志社大学・准教授)  
大江 將貴 (京都大学・大学院生)  
大谷 彬矩 (龍谷大学・研究員)  
大塚英理子 (愛知教育大学・講師)  
久保田真功 (関西学院大学・教授)  
相良 翔 (埼玉県立大学・助教)  
作田誠一郎 (佛教大学・教授)  
津島 昌弘 (龍谷大学・教授)  
都島 梨紗 (岡山県立大学・講師)  
津富 宏 (静岡県立大学・教授)  
中森 弘樹 (立教大学・助教)  
西本 成文 (龍谷大学・リサーチアシスタント)  
橋場 典子 (成蹊大学・助教)  
松川 杏寧 (防災科学技術研究所・特別研究員)  
丸山 泰弘 (立正大学・教授)  
森久 智江 (立命館大学・教授)

本研究は、龍谷大学・私立大学研究ブランディング事業、  
ならびにJSPS科研費21H00785等の助成を受けている。

にちじょうせいかつ  
日常生活ひこうならびにセルフコントロールとかんれん非行との関連

こくさいじ こしんこくひこうちようき アイエスアールディー  
国際自己申告非行調査 (ISR D) ワーキングペーパーシリーズ 1

発 行 日：2021年5月10日

アイエスアールディー ジャパンじっこういいんかい  
編集・発行：ISR D-JAPAN実行委員会